



# 沼南の百庚申

おおらかに 9 7 基

柏駅から沼南の布瀬行ききのバスを手賀東小学校前で降りると、この百庚申のお出迎えに逢う。小学校とは反対の、すぐ白井になる田んぼの中に、特別養護老人ホーム「アネシス」があつて、素人演劇集団「だいこん座」の慰問公演を手伝いに来たのだが、おおらかな、のんびりした、この百庚申の行列から世間離れた話声が聞こえそうな気がした。

過密！増尾の百庚申↓

神に人の悪行を告げ口する三戸の虫の昇天を防ごう！



増尾の百庚申は紹介した。右の写真のような過密、この地の小字が庚申塚で、他にも庚申の地名が多い。人間の体の中には三戸（さんし）という虫がいて、六十日ごとの庚申の夜に、人が眠っている間に天にのぼり、その悪行を神に報告、寿命をちじめる。このため庚申の日には眠らず、三戸の虫の昇天をふせごう、というのが庚申信仰。庚申塔となり青面金剛（しょうめんこんごう）を祭る。

青面金剛は一面三眼六臂、蛇が巻きつき、見ざる、言わざる、聞かざるの三猿がつく。中国の道教から伝わり、日本の民間信仰の中で、独自の発展したものだという。經典めいたものはない。信仰は常に娯楽と結びつく。三戸の虫を防ごうと、庚申待ちに集まった村人たちは、飲み食いし、懇親を深め、息抜き場を作り出してきた。布瀬の百庚申は、文政七年（一八二四）から明治八年（一八七五）までのものだが、明治になっても風習は残っていたことになる。

因みに、これからの庚申の日は、七月三十日、九月二十八日、納めの庚申が十一月二十七日になる。徹夜で酒を飲みますか。

末広クラブ・逆井漫步93 平成18年6月